

# 十勝 清水

Tokachi Shimizu

最高のぜいたく、育てています。



2026年2月号  
398号



Agricultural Cooperative Association Magazine

自然と環境 人と人とのつながりを大切にしています。

 十勝清水町農業協同組合



JJA女性部 第2回研修会

JA女性部むらさき会 第2回研修会

JAそよかぜの会 出前講座勉強会

JJAそよかぜの会 第3回研修会

JJA女性部 第3回研修会・十勝女性協研修会



JA女性部むらさき会（澤口 幸子会長）は11月11日に農協本所にて第2回研修会を行い、同会員14名が参加しました。

午前中は、けんざんやオアシスを使用した『生け花』・『フラワーアレンジメント』を行いました。平野真実氏を講師としてお迎えし、研修会をスタートしました。農協華道部の後藤職員にもお手伝い頂きながら、思いおもいの作品を制作しました。

午後は、『ペットボトル輪投げ』を行いました。各チームで様々な投法を編み出して高得点を狙う様子が見られました。

午後は、『ペットボトル輪投げ』を行いました。ピンに上手く輪が通らず苦戦する様子も見られましたが、「こうやって投げた方がいいよ」と声を掛け合っていました。午後の企画ではどのチームも勝ちを譲らぬ互角の戦いとなりました。

午後の各種目を終えると、拍手で互いの健闘を讃え合つて研修会を締め括りました。「すごく楽しかったね」と会話する様子が見られ、「お花」と「ペットボトルボウリング」『ペットボトル輪投げ』で心も身体もリフレッシュしていました。





## 堆肥ペレット「しみず有機」と 「とれたんと」の取組についてが 農林水産省 畜産局長賞を受賞しました



国内肥料資源利用拡大アワード事務局  
(一般社団法人日本有機資源協会)は、  
国内肥料資源の利用拡大に賛同しています



**一般社団法人  
日本有機資源協会の概要**  
十勝清水町農業協同組合  
堆肥ペレット「しみず有機」と  
「とれたんと」の取組について

「豊かなる大地、永遠の地球」を  
次世代に引き継ぐことを使命とし、  
産業界・学界・国・地方自治体・市  
民の皆さまとの連携のもと、バイオ  
マスの有効活用による、持続可能な  
循環型社会の構築、地域活性化、環  
境保全、新産業創出に全力で取り組  
みます。

一般社団法人日本有機資源協会に移行



**農林水産省畜産局長賞**  
北海道・十勝平野の西端  
日高山脈の麓に広がる清水  
町。清らかな水と豊かな大地  
に恵まれたこの町では、農業  
を基幹産業として、畑作や酪  
農が盛んに行われています。  
JA十勝清水町では、こうし  
た地域の特性を生かし、「地  
域資源を地域で循環させる農  
業」を目指した取り組みを進  
めてきました。その中心にあ  
るのが、堆肥ペレット「しみ  
ず有機」と、農産物ブランド  
「とれたんと」です。

**家畜ふん尿を「資源」に  
変える「しみず有機」**  
「しみず有機」は、清水町内  
の酪農家や養鶏農家から出る  
牛糞・鶏糞を主要原料に、木質  
チップを加えて丁寧に腐熟・  
造粒した堆肥ペレットです。  
枯渴への懸念が高まる中、J  
A十勝清水町は「処理すべき  
もの」とされがちな家畜排泄  
物を、貴重な地域資源として  
有効活用する道を選びました。

化学肥料の価格高騰や資源  
枯渇への懸念が高まる中、J  
A十勝清水町は「処理すべき  
もの」とされがちな家畜排泄  
物を、貴重な地域資源として  
有効活用する道を選びました。

その結果、土づくりに役立  
ち、作物の生育が安定する傾  
向が確認され、利用方法や化  
学肥料との併用提案など、実  
践的な情報を農業者に提供し  
ています。

また、JAが散布作業を請  
け負う「コントラ散布」を導  
入したこと、労力面の課題  
も解消。畑作農家だけでなく  
、牧草地を持つ酪農家にも  
利用が広がり、現在では年間  
約800トンが安定的に出荷  
されています。

**地域とともに、未来へ**  
一方で、施設や機械の老朽化、  
維持費の高騰といった課題も抱  
えています。それでもJA十勝  
清水町は、地域の農業を次世代  
につなぐため、「しみず有機」と  
「とれたんと」の取り組みを  
続けています。

清水町の自然と農業、そして  
生産者の想いが詰まった「と  
れたんと」。そのロゴを見かけた際には、  
ぜひ手に取って、地域資源循環  
型農業の味わいを感じてみてく  
ださい。

### 表彰概要

海外からの輸入原料に依存した肥  
料から、堆肥や下水汚泥資源等の国  
内資源を活用した肥料へ積極的に転  
換を図る取組や地域で効率的に資源  
循環を推進する取組を通して顕著な  
実績を挙げている肥料原料供給事業  
者、肥料製造事業者、肥料利用者、  
それらの事業者間の連携を支援して  
いる団体（以下、事業者間連携支援  
者）を広く表彰し、国内資源肥料の  
全国普及、生産性の向上を推進する  
ことを目的としているものです。

### JA十勝清水町の 「しみず有機」と 「とれたんと」の挑戦

長期間の腐熟化により、臭い  
が少なく、雑草種子や病原菌の  
心配もありません。さらに、ペ  
レット状にすることで散布し  
やすく、既存の農機で使える点  
も大きな特長です。JA十勝清水  
町は、清らかな水と豊かな大地  
に恵まれたこの町では、農業  
を基幹産業として、畑作や酪  
農が盛んに行われています。

「しみず有機」を活用した農  
業の取り組みを、消費者にも分  
かりやすく伝えるために生まれ  
たのが、農産物ブランド「と  
れたんと」です。

「とれたんと」を組み合わせたこの名  
前には、豊かな土で育った農産  
物をたっぷり味わってほしいと  
いう想いが込められています。

7

### 地域資源を生かし、未来につなぐ農業へ

「元気な土から、元気な作物を」  
「ブランド「とれたんと」

6

当JAでは、様々な農業関係者との意見交換を実施し、これから求められる農業、持続的な農業を目指すために推進されている様々な事例のご紹介、そして、組合員皆様方の今後の農業経営を考える上で、より農業所得が向上し従事関係者の所得向上へつながるきっかけづくりの場として情報提供致します。

## スマート農業とTAFシステムの活用で限られた労働力で効率化と農業所得向上を実現

近年、農業分野では高齢化や若手就農者の減少により、深刻な労働力不足が課題となっています。このような状況の中、限られた人員で効率よく農作業を行い、安定した収量と品質を確保し、農業所得向上させるためには、農業経営の効率化が不可欠です。

そこで私たちは、最先端のIT技術を活用した「スマート農業」の推進により、地域農業の発展と生産者の負担軽減、そして農業所得の向上を目指しています。

特に、TAFシステム（Total Agricultural Field system）の導入は大きな効果を上げています。例えば、TAFシステムを活用することで、圃場ごとの生育状況や気象データ、作業履歴などをリアルタイムで一元管理できるようになりました。これにより、最適な作業時期や施肥量の判断が可能となり、無駄のない効率的な農作業が実現しています。

また、TAFシステムとドローンやAI搭載自動運転トラクターを組み合わせることで、圃場の空撮や生育モニタリング、耕うん・播種・収穫作業の自動化が進み、従来は多くの人手と時間が必要だった作業を大幅に効率化。作業者の負担軽減と作業精度の向上に加え、収量や品質の安定化、そして農業所得の増加にもつながっています。今後も、TAFシステムをはじめとした最新技術の活用を積極的に進め、地域農業の持続的な発展と生産者の所得向上を目指してまいります。

## TAFシステムの活用による農業所得向上への取り組み

当組織では、農業現場の効率化と生産者の所得向上を目指し、TAFシステム（Total Agricultural Field system）を積極的に導入しています。

TAFシステムは、圃場ごとの生育状況や気象データ、作業履歴などを一元管理できるため、最適な作業計画や資材投入が可能となります。

このシステムの活用により、無駄のない効率的な農作業が実現し、作業時間やコストの削減、収量や品質の安定化につながっています。結果として、農業経営の効率化とともに、生産者の所得向上にも大きく貢献しています。今後もTAFシステムをはじめとした先進技術の導入を進め、持続可能な農業と地域の発展を目指してまいります。



2026.01.27 北海道農政部農業経営課 働き方改革セミナー受講 当農協組合員周知資料

とき..11月20~21日  
ところ..長沼・札幌方面

とき..11月25日  
ところ..ホテル日航ノースランド帯広

とき..12月4~5日  
ところ..札幌パークホテル

# J A青年部管外視察研修会・十勝大会・全道大会

## 管外視察研修会

## 十勝大会

## 全道大会



11月20日、21日の両日に渡って、JA青年部（笹原恵介部長）は、長沼・札幌方面への管外視察研修会を開催しました。本研修会では、1日目には雪印種苗（株）北海道研究農場、2日目にはサッポロファクトリーにて視察を行いました。

雪印種苗（株）の視察研修では、農産・畜産部門の2つの内容を学び、農産部門では緑肥栽培の考え方から、小麦後作に向いている緑肥の紹介が、畜産部門では嗜好性・栄養価・越冬性などを優れた草種について紹介され、実際の種の様子の見学では興味深く見学していました。また、サッポロファクトリーでの視察研修では、道内各地の食品を視察しました。

11月25日、第50回JA十勝青年部大会が開催され、当JA青年部（笹原恵介部長）からは7名が参加しました。今年度で第50回を迎えた十勝大会では、JA青年の主張・レバンガ北海道代表取締役社長折茂武彦氏による基調講演、動画で発信！農業報告など様々なイベントが盛りだくさんとなっていました。

懇親会では、アームレスリング大会・十勝地区純農bōYコンテストが開催され、それぞれ大聲援が飛び交うなど大いに盛り上がりを見せ、第50回の節目に相応しい大会となり、大盛況のうちに幕を閉じました。

12月4日、5日の両日に渡って、第74回全道JA青年部大会が行なわれ、当JA青年部（笹原恵介部長）からは7名が参加しました。JA青年部大会が行われ、それぞれ「仲間」や、「田んぼアート」をテーマにした発表がされており、部員たちは今後の青年部活動の参考にしようと真剣に聞き入っていました。2日目は、『ギャル式ブレスト×農業』と題し、合同会社CGOドットコム代表総長バブリー（竹野理香子）氏による基調講演が行われました。『分軸』『直感性』『ポジティブ思考』に基づく『ギャルマインド』を活かし、参加者たちは青年部活動の課題解決に向けたアイデアを出し合うなど、有意義な大会となりました。

これが大事なようです。せつかくの地域資源があるので、無駄にケイ素肥料などを入れる必要はありません。それでも施肥したい方は、鉄鋼業の副産物である「製鋼スラグ」に由来する肥料を入れると良いかもしれません。ケイ素はもちろん、リン、カルシウム、マグネシウムなども補給できる可能性があります。リン酸肥料の減肥や製鋼スラグの施用などについては、今年度から十勝清水町の生産者圃場での試験を開始しています。成果が得られたら、このコラムでも紹介していきますので、皆様のご協力をお願いします。

實際、コムギ地上部によるケイ素吸收量の平均値が少なかつた低地でも、ケイ素吸收量が10アール当たり10gに留まっている(圓湯らうしげば、コ

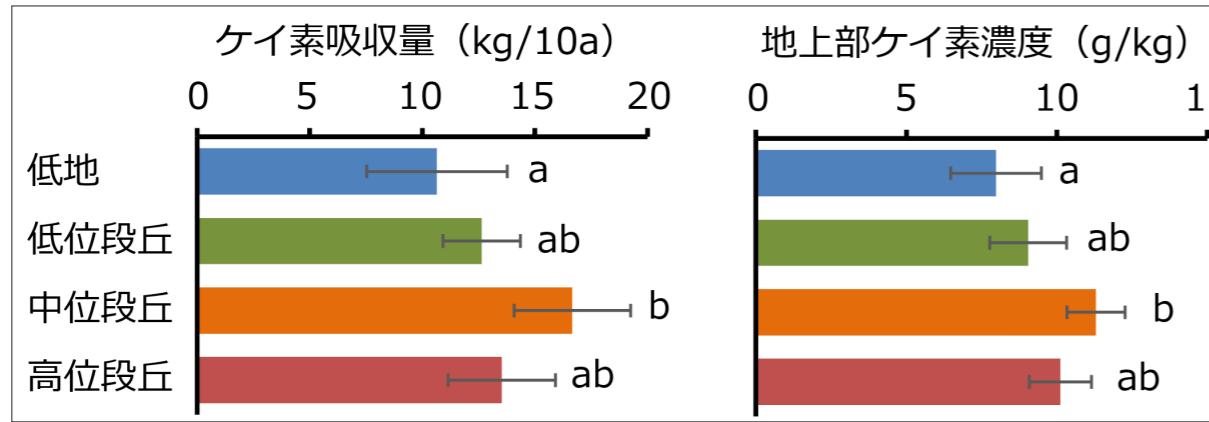


図2 コムギ圃場40地点における地形区分毎のコムギ地上部によるケイ素吸收量と地上部のケイ素濃度

今回のシリーズ最初のエピソードでも紹介したように、イネ科作物は、ケイ素を十分に吸収できると葉の構造が強くなり、葉が上に向きやすくなるので太陽光の受光率が上がり、光合成の能力が高まります。また、病虫害などの生物的ストレスや高温・干ばつなどの非生物的ストレスのあらゆる条件下では、ケイ素を吸収した作物ではストレスが大幅に軽減されます。穀殻のケイ素濃度の高さが、病害や穂発芽などのストレス緩和に効

ケイ素吸収量が異なる

コムギ地上部の部位、先ほど説明した葉や茎などの稈、禾や穎などの穀殻、そして子実のケイ素吸収量を比べてみました（図3）。一番多いのは、稈で10アール当たり8.3kgと全吸収量の60%以上を占めます。意外と吸収量が多かったのは、禾や穎などの穀殻の4.3kgです。ケイ素濃度で比べると、穀殻が2.8%とともに高く、子実にはほとんど含まれていません。

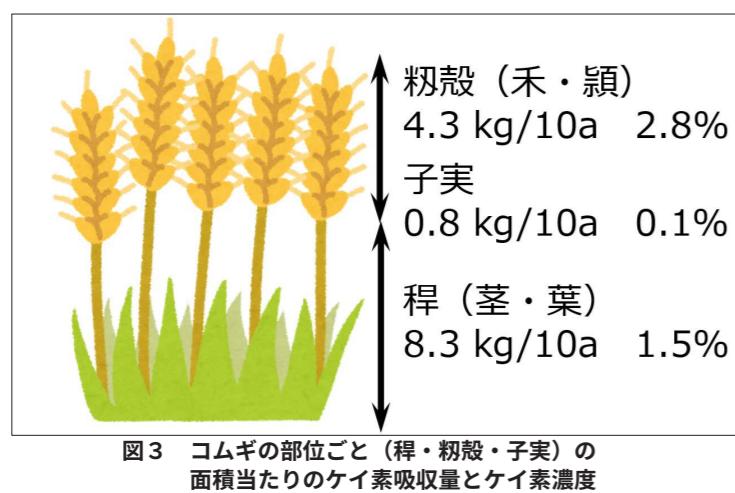


図3 コムギの部位ごと（稈・穀殻・子実）の面積当たりのケイ素吸收量とケイ素濃度

次回のコラムでは、コムギとケイ素シリーズの最終回（第5回）として、土壤の可給態ケイ素とコムギのケイ素吸収との関係を紹介します。が、これは研究や実証がまだまだ必要です。



窒素やカリウムなみに  
ケイ素を吸收

前回のコラムでも紹介したように、土壤から可給態ケイ素が供給されて、コムギはケイ素を吸収しています。十勝清水町の秋コムギについて、コムギ栽培圃場40地点におけるコムギ地上部による養分吸収量を調べてみました（図1）。コムギ地上部とは、葉や茎などの稈（かん）、禾（のげ）や穎（えい）などの穀殼、そして子実を合わせたすべての部位のことです。

コムギ地上部による窒素吸収量は10アール当たり約19kg。カリウム吸収量は約20kgであり、かなりの養分を吸収しています。土壤から供給された可給態養分と、施肥により供給された養分が吸収された結果を示しています。一方、リン吸収量は10アール当たり約2.6kgであり、他の養分と比べるとかなり少ないことが分かります。土壤の有効態リンによりリンが十分に吸収できているとすれば、リン施肥はほぼ必要ないとということになるかもしれません。

そして注目のケイ素吸収量については、10アール当たり約13kgであ

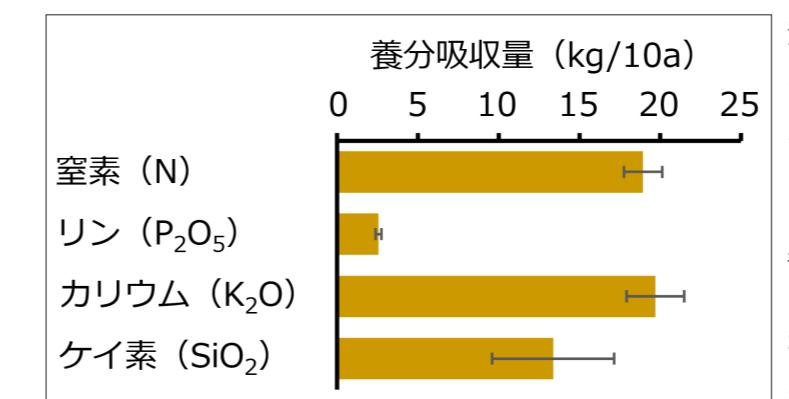


図1 コムギ圃場40地点におけるコムギ地上部による  
養分(窒素、リン、カリウム、ケイ素)の吸収量

## 地形区分ごとに ケイ素吸収量が異なる







## 今月の「職員紹介」



なすかわ まゆ  
名須川 真夕 職員

### 最近の出来事

スノーボードをはじめました

◆所属部署・担当業務

管理部 管理課

経理担当

◆趣味

バレー・ボル

◆自分はこんな人です

負けず嫌い

◆上司からの一言（吉田 賢史 課長より）

令和6年4月に入組し、現在は経理業務や人間ドック等の健康管理推進事業も担当しております。

まだ2年目とは思えない落ち着いた仕事ぶりは、非常に頼もしく感じております。

まだまだ分からぬ事もあるかと思いますが、先輩方にアドバイスをもらいながら今後の成長に繋げていただければと思います。

また、2月は次年度の人間ドックのとりまとめがあり、組合員の皆様とのやり取りも増えるかと思います。日程調整等スムーズに行う事ができるよう頑張りましょう。

来月の「職員紹介」は小室 理穂 職員です。 **十勝清水**

## 今月のメニュー

### 材料（4人分）

ほうれん草	160g
コーン缶	20g
ツナ缶	1缶(70g)

ごま油	小さじ1(4g)
しょうゆ	小さじ1弱(4g)

### 作り方

- ①ほうれん草は、ゆでて2~3cmの長さに切っておく。
- ②具材と調味料を全て合わせてできあがり。

J A女性部 料理研究会

### ほうれん草のツナコーン和え



6月26日にJA女性部 料理研究会が、料理研究会実習を開催しました。

「今月のメニュー」として今回を含め5回、活動で作った料理の調理メニューを紹介致します(3/5回目)。

### 栄養価（1人分）

エネルギー	たんぱく質	脂質	炭水化物	食物繊維	食塩相当量
33kcal	3.1 g	1.2 g	1.6 g	1.3 g	0.3 g